

国立国語研究所学術情報リポジトリ

The interrelationship between the language usage of people in Tokyo according to age, sex, occupation, status and the proportion of words of Japanese, Chinese, European origin in the early years of the Meiji Period : As seen in “Aguranabe”

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飛田, 良文, HIDA, Yoshifumi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001066

明治初期東京人の階層と語種との関係

——『安愚楽鍋』を中心として——

飛田良文

1. はじめに

現代東京語の成立過程を明らかにするためには、現代東京語の直接の源流である明治初期の実態を明らかにする必要がある。明治初期の東京語を反映する文献は多いが、一つの作品で当時の言語位相のすべてを含む作品はきわめて少ない。そして、位相を反映する資料としては『安愚楽鍋』（明治4—5）以上のものはみられないようである。私は、この資料を用いて、指定表現体系、否定表現体系、人称代名詞の体系、動作を示す表現（する類）の体系、人名につく接辞類の体系について考察し、近世の身分制を反映する言語位相を明らかにしてきた^(注1)。また、古田東朔、鈴木英夫両氏にも同様の観点からの論考がある^(注2)。しかし、和語、漢語、外来語という語種の面からの語彙体系を考察したものはない。

そこで本稿では、明治初年の言語生活をもっともよく反映していると考えられる仮名垣魯文の『安愚楽鍋』を資料として、そこにあらわれる話しことばをすべて考察の対象とし、そこに登場する各階層の人物ごとに、その使用語を調査し、語種の面から明治初年の言語位相を明らかにしてみたいと思う。いいかえれば、『安愚楽鍋』に登場する人物ごとに使用語彙表を作成し、その語種を分析し、それらの使用率が登場人物の身分・職業・性別の位相とどのようにかかわっているか、その相関関係を明らかにしたいと思う。

東京人の範囲は『安愚楽鍋』の登場人物すべてを含むものとした。それは、東京は日本第一の都市であり、各地方人のたまり場であり、それらの人々が今日の東京語を形成したからである。

『安愚楽鍋』の底本には国立国会図書館蔵本（国立国語研究所資料集9『安愚楽鍋用語索引』<齋賀秀夫・飛田良文・梶原滉太郎担当>所収）を使用した。

2. 『安愚楽鍋』における語彙の実態

『安愚楽鍋』に登場する人物は49名おり、このうち(A)実際に牛鍋を食べた人物が22名(男18, 女4)と、(B)それらの人物が話題にし、そのことばを引用された人物が27名いる(注3)。そして、『安愚楽鍋』の場合、話し手は二人連れか一人で牛鍋を食べており、話し手と聞き手とは一対一で固定し、中に牛鍋屋の女中に注文することばが若干加わっているだけである。そこで、話し手ごとに使用語彙を整理した。単語の認定は『安愚楽鍋用語索引』の自立語索引の見出しに従った。くわしくは同索引の凡例を参照されたい。

語種の認定は、和語・漢語・外来語(注4)(外国語を含む)・混種語・固有名詞(固有名詞との複合語を含む)とした。したがって、固有名詞は人名・地名・店名・作品名と、これらを含む「〇〇人」、「〇〇さん」、のようなものを含んでいる。なお、登場人物が歌ったり引用した「歌」の類は、人物によって漢詩であったり和歌であったり端唄であったりして位相の反映がみられるので、話しことばとは区別して集計し、()に入れて付記した。

『安愚楽鍋』における語彙の実態は、別表の人物別使用語彙表の通りである。ただし、紙数の関係で、身分の明らかな「士」「商」「工」に属する五人を例示し、他は省略した。別表の見出しは、和語(平仮名)・漢語(片仮名)・外来語(ローマ字)で示した。

3. 『安愚楽鍋』における東京人の語彙量

『安愚楽鍋』に登場した人物49名の使用した話しことばの語彙量は、集計すると延べ語数7,354語、異なり語数3,301語で、使用量の多い順に並べると、各人物別の実態は第1表(延べ語数)と第2表(異なり語数)のようになる。

まず、延べ語数(第1表)からみると、

和語	5,065語	68.9%	(60語	72.3%)
漢語	1,295語	17.6%	(17語	20.5%)
外来語	27語	0.4%	(0語	0%)
混種語	515語	7.0%	(2語	2.4%)

第1表 人物別使用度数表（延べ語数）

性別	語種		和語	漢語	外来語	混種語	固有名詞	計(歌)
	人物							
男	(A)	あくぬけした男	295	79	5	28	59	466
		士	274	106	1	21	6	408
		新聞好の男	218	127	2	23	16	386
		芝居者	254	65	0	38	29	386
		商法個	265	63	2	20	28	378
		落語家	259	50	2	41	18	370
		薙医者	207	98	0	31	9	345
		文盲の男	255(15)	45(2)	0	10(1)	29(3)	339(21)
		西洋好の男	210	65	1	12	5	293
		職人	207	40	0	17	19	283
		墮落個	191	34	0	28	24	277
		野村間	190(2)	39(2)	1	25	22	276(4)
		町人	149	43	1	40	6	239
		生文人	126	58	0	14	28	226
	車夫	164	21	1	15	16	217	
	馬	107	31	3	7	4	152	
	鄙武士	47(25)	34(11)	0	8(1)	0	89(37)	
	牛	43	9	1	4	2	59	
	(B)	ある先生	27	10	0	0	1	38
		音ちゃん	10	3	0	1	1	15
書画会に同席した人		8	6	0	1	0	15	
客		12	0	0	1	0	13	
旦那		10	1	0	0	1	12	
唐物屋の番頭		9	1	0	0	2	12	
客人		7	1	0	0	2	10	
土地の者		7	2	0	0	0	9	
異人		5	2	1	0	0	8	
花清(講談師)		5	2	0	0	0	7	
河竹(歌舞伎作者)		5	1	0	0	0	6	
楓胡先生		5	1	0	0	0	6	
魯文		4	1	0	0	1	6	
樗梁		2	0	0	0	2	4	
あななくま		2	1	0	0	0	3	
道灌		2(6)	0	0	1	0(1)	3(7)	
犬公・元役	2	0	0	1	0	3		
お茶屋	2	0	0	0	0	2		
(A)	歌妓	391(8)	82(2)	4	50	46	573(10)	
	たちのきの娼妓	339	67	0	24	26	456	
	茶店女(ころ)	311	43	2	21	15	392	
	それしゃあがり(ひき)	304	38	0	20	23	385	
(B)	浜のしんるい	58	17	0	7	6	88	
	小の町さん	24	2	0	0	0	26	
	おいらん	12	3	0	2	4	21	
	番新	14	3	0	2	2	21	
	遊女屋のことば	13	0	0	0	0	13	
	ころの母	7	2	0	0	0	9	
	女中	3	0	0	2	0	5	
	茶屋のおかみ	4	0	0	0	0	4	
娘	0(4)	0	0	0	0	0(4)		
総計		5,065(60)	1,295(17)	27	515(2)	452(4)	7,354(83)	

第2表 人物別使用度数表(異なり語数)

性別	語種		和語	漢語	外来語	混種語	固有名詞	計(歌)	
	人物								
男	(A)	あくぬけした男	219	74	4	28	51	376	
		新聞好の男	153	113	2	21	16	305	
		芝居者	196	53	0	25	27	301	
		士	173	94	1	19	5	292	
		商法個	187	59	2	20	24	292	
		敷医者	154	86	0	31	9	278	
		落語家	173	43	2	25	15	258	
		文盲の男	162(14)	38(2)	0	10(1)	26(3)	236(20)	
		野郎間	151(2)	36(1)	1	17	20	225(3)	
		職人	157	32	0	17	16	222	
	(B)	墮落個	140	28	0	23	23	214	
		西洋好の男	134	55	1	9	5	204	
		生文人	98	51	0	12	28	189	
		町人	117	41	1	19	6	184	
		車夫	130	18	1	13	15	177	
		馬	93	22	3	6	4	128	
		鄙武士	33(18)	28(11)	0	6(1)	0	67(30)	
		牛	40	9	1	4	2	56	
		(A)	ある先生	22	10	0	0	1	33
			音ちゃん	10	3	0	1	1	15
客	11		0	0	1	0	12		
書画会に同席した人	5		6	0	1	0	12		
旦那	10		1	0	0	1	12		
唐物屋の番頭	9		1	0	0	2	12		
客人	6		1	0	0	2	9		
土地の者	6		2	0	0	0	8		
異人	4		2	1	0	0	7		
花清(講師)	5		2	0	0	0	7		
河竹(歌舞伎作者)	5		1	0	0	0	6		
楓胡先生	5		1	0	0	0	6		
魯文	4		1	0	0	1	6		
棟梁	2		0	0	0	2	4		
あなくま	2		1	0	0	0	3		
道灌	2(5)	0	0	1	0(1)	3(6)			
犬公・元役	2	0	0	1	0	3			
お茶屋	2	0	0	0	0	2			
(A)	歌妓	260(8)	66(2)	4	38	38	406(10)		
	たちのきの娼妓	210	49	0	23	18	300		
	茶店女(ころ)	189	34	2	19	11	255		
	それしゃあがり(ひき)	187	35	0	20	16	254		
	(B)	浜のしんるい	50	16	0	7	6	78	
		小の町さん	23	2	0	0	0	25	
		番新	12	3	0	2	2	19	
		おいらん	11	3	0	2	2	18	
		遊女屋	12	0	0	0	0	12	
		ころの母	7	2	0	0	0	9	
女中		3	0	0	2	0	5		
茶屋のおかみ		4	0	0	0	0	4		
娘	0(4)	0	0	0	0	0(4)			
総計		1799 (51)	802 (16)	21	334 (2)	345 (4)	3301 (73)		

固有名詞 452語 6.2% (4語 4.8%) … ()内は歌
 となり、和語が圧倒的に多い。外来語はきわめて少ない。人物別にみると、
 (A)に属する男の使用した延べ語数は、「あくぬけした男」の466語を最高に
 「牛」の59語まで、女は「歌妓」の573語から「それしゃあがり」の385語ま
 で、(B)に属する人物は男が38語以下、女が88語以下である。

次に異なり語数(第2表)をみると、

和語	1,799語	54.5%	(51語 69.9%)
漢語	802語	24.3%	(16語 21.9%)
外来語	21語	0.6%	(0語 0%)
混種語	334語	10.1%	(2語 2.7%)

第3表 人物別使用率表(延べ語数)

性別	No.	人物	和語	漢語	外来語	混種語	固有名詞
男	1	鄙武士	52.8	38.2	0	9.0	0
	2	新聞好の男	56.5	32.9	0.5	6.0	4.2
	3	藪医者	60.0	28.4	0	9.0	2.6
	4	士	67.2	26.0	0.3	5.2	1.5
	5	生文人	55.8	25.7	0	6.2	12.4
	6	西洋好の男	71.7	22.2	0.3	4.1	1.7
	7	馬	70.4	20.4	2.0	4.6	2.6
	8	町人	62.3	18.0	0.4	16.7	2.5
	9	あくぬけした男	63.3	17.0	1.1	6.0	12.7
	10	芝居者	65.8	16.8	0	9.8	7.5
	11	商法個	70.1	16.7	0.5	5.3	7.4
	12	牛	72.9	15.3	1.7	6.8	3.4
	13	職人	73.2	14.1	0	6.0	6.7
	14	野幫人間	68.8	13.8	0.4	9.1	8.0
	15	落語家	70.0	13.5	0.5	11.1	4.9
	16	文盲の男	75.2	13.3	0	3.0	8.6
	17	墮落個	69.0	13.3	0.4	10.1	8.7
	18	車夫	75.6	9.7	0.5	7.0	7.4
女	1	たちのきの娼妓	74.3	14.7	0	5.3	5.7
	2	歌妓	68.2	14.3	0.7	8.7	8.0
	3	茶店女(ころ)	79.3	11.0	0.5	5.4	3.8
	4	それしゃあがり(ひき)	79.0	9.9	0	5.2	6.0

固有名詞 345語 10.5% (4語 4.9%)

となり、やはり和語が圧倒的である。人物別にみると、(A)に属する男の使用した異なり語数の最高は376語(あくぬけした男)で、最低が56語(牛)である。(B)に属する男は33語以下、女は78語以下である。

そこで、本稿では(A)に属する人物を中心に考察を進めていくことにする。

語彙量の順位に注目して、延べ語数の場合と異なり語数の場合と比較してみると、人物によって順位に移動がみられ、語種の割合もさまざまである。そこで、明治初期は漢語流行の時代といわれているので(注5)、漢語の使用率(パーセント)を基準にして人物を並べると、第3表(延べ語数)、第4表(異なり語数)のようになる。

第4表 人物別使用率表(異なり語数)

性別	No.	人 物	語 種				混種語	固有名詞
			和 語	漢 語	外来語			
男	1	鄙 武 士	49.3	41.8	0	9.0	0	
	2	新 聞 好 の 男	50.2	37.1	0.7	6.9	5.3	
	3	士	59.3	32.2	0.3	6.5	1.7	
	4	蕨 医 者	55.4	30.9	0	11.2	3.2	
	5	西 洋 好 の 男	65.7	27.0	0.5	4.4	2.5	
	6	生 文 人	51.9	27.0	0	6.4	14.8	
	7	町 人	63.6	22.3	0.5	10.3	3.3	
	8	商 法 個	64.0	20.2	0.7	6.9	8.2	
	9	あくぬけした男	58.2	19.7	1.1	7.5	13.6	
	10	芝 居 者	65.1	17.6	0	8.3	9.0	
	11	馬	72.7	17.2	2.3	4.7	3.1	
	12	落 語 家	67.1	16.7	0.8	9.7	5.8	
	13	文 盲 の 男	68.6	16.1	0	4.2	11.0	
	14	牛	71.4	16.1	1.8	7.1	3.6	
	15	野 村 間	67.1	16.0	0.4	7.6	8.9	
	16	職 人	70.7	14.4	0	7.7	7.2	
	17	墮 落 個	65.4	13.1	0	10.3	10.8	
	18	車 夫	73.5	10.2	0.6	7.3	8.5	
女	1	歌 妓	64.0	16.3	1.0	9.4	9.4	
	2	たちのきの娼妓	70.0	16.3	0	7.7	6.0	
	3	茶 店 女(ころ)	74.1	13.3	0.8	7.5	4.3	
	4	それしやあがり(ひき)	74.4	11.4	0	7.9	6.3	

使用率に注目すると、和語は延べ語数の場合52.8パーセント以上、異なり語数の場合49.3パーセント以上であり、漢語が延べ語数の場合38.2パーセント以下、異なり語数の場合41.8パーセント以下であるのと対照的である。外来語は2.3パーセント（異なり語数）を越える人物はなく、混種語も11.2パーセント（異なり語数）を越えるものがない。固有名詞も14.8パーセント（異なり語数）を越えるものがない。したがって、混種語と固有名詞の使用率が和語と漢語の使用率に影響を与えているものと考えられる。ただし、混種語は實際上和語と漢語の混種であるから、固有名詞の使用率が和語と漢語の割合に影響していることになろう。

4. 『安愚楽鍋』における東京人の階層と語種の関係

『安愚楽鍋』において、牛肉を食べながら話した(A)に属する人物のうち、身分の明白な人物は

〔士〕 士・鄙武士

〔商〕 町人・商法個

〔工〕 職人

の五人である。この五人の語種の使用率を比較すると、延べ語数の場合は次のようになる。

	(和 語)	(漢 語)	(外来語)	(混種語)	(固有名詞)
鄙武士	52.8	38.2	0	9.0	0
士	67.2	26.0	0.3	5.2	1.5
町人	62.3	18.0	0.4	16.7	2.5
商法個	70.1	16.7	0.5	5.3	7.4
職人	73.2	14.1	0	6.0	6.7

ここで注目されるのは、漢語は鄙武士から職人へと使用率が減少するにともなう、和語は士と町人とで逆ではあるが、増加していることである。

また、異なり語数の場合は次のようになる。

	(和 語)	(漢 語)	(外来語)	(混種語)	(固有名詞)
鄙武士	49.3	41.8	0	9.0	0
士	59.3	32.2	0.3	6.5	1.7

町人	63.6	22.3	0.5	10.3	3.3
商法個	64.0	20.2	0.7	6.9	8.2
職人	70.7	14.4	0	7.7	7.2

ここでも、漢語の減少にともなって、和語は増加し、〔士〕は40～50パーセント台、〔商〕は60パーセント台、〔工〕は70パーセント台と区分できる。したがって、和語と漢語との使用率は、延べ語数の場合も異なり語数の場合も反比例する方向で、身分と密接な関係があるものと考えられる。

そこで、第3表と第4表について検討すると、延べ語数の場合も異なり語数の場合も全体としては漢語の使用率の減少にともなって和語が増加するけれども、一定の傾向を示さない。そこで、和語と漢語の使用率に影響する外来語・

第5表 和語と漢語の使用率表(延べ語数)

第6表 和語と漢語の使用率表(異なり語数)

性別	No.	語種	
		人物	
男	1	鄙武士	58.0 42.0
	2	新聞好の男	63.2 36.8
	3	藪医者	67.9 32.1
	4	生文人	68.5 31.5
	5	士	72.1 27.9
	6	西洋好の男	76.4 23.6
	7	馬	77.5 22.5
	8	町人	77.6 22.4
	9	あくぬけした男	78.9 21.1
	10	芝居者	79.6 20.4
	11	商法個	80.8 19.2
	12	牛	82.7 17.3
	13	野幫間	83.3 16.7
	14	職人	83.8 16.2
	15	落語家	83.8 16.2
	16	墮落個	84.9 15.1
	17	文盲の男	85.0 15.0
	18	車夫	88.7 11.4
女	1	歌妓	82.7 17.3
	2	たちのきの娼妓	83.5 16.5
	3	茶店女(ころ)	87.9 12.2
	4	それしやあがり(ひき)	88.9 11.1

性別	No.	語種	
		人物	
男	1	鄙武士	54.1 45.9
	2	新聞好の男	57.5 42.5
	3	藪医者	64.2 35.8
	4	士	64.8 35.2
	5	生文人	65.8 34.2
	6	西洋好の男	70.9 29.1
	7	町人	74.1 26.0
	8	あくぬけした男	74.7 25.3
	9	商法個	76.0 24.0
	10	芝居者	78.7 21.3
	11	落語家	80.1 19.9
	12	野幫間	80.8 19.3
	13	馬	80.9 19.1
	14	文盲の男	81.0 19.0
	15	牛	81.6 18.4
	16	職人	83.1 16.9
	17	墮落個	83.3 16.7
	18	車夫	87.8 12.2
女	1	歌妓	79.8 20.3
	2	たちのきの娼妓	81.1 18.9
	3	茶店女(ころ)	84.8 15.3
	4	それしやあがり(ひき)	86.7 13.3

混種語・固有名詞を除いて、和語と漢語とだけの使用率を計算しなおすと、第5表（延べ語数）と第6表（異なり語数）のようになる。これも漢語の使用率を基準として人物を配列した。したがって、延べ語数の場合も異なり語数の場合も、漢語の使用率が減少するにともなって和語の使用率が増加し、一つの例外もなく増加あるいは減少の一定の傾向を示すことになった。そして、男の場合和語と漢語とだけの割合は、明治初期における東京人の身分や職業と語彙体系との間に、密接な相関関係のあることを示している。それは、生文人が上位にあり、文盲が下位にあることから一見して理解されるであろう。

また、女の語種の割合も、第3表・第4表において和語と漢語の使用率が逆の方向を示していたが、第5表・第6表においては、さらに明確になり、男の身分・職業による関係と呼応する。したがって、女の身分・職業の差が男ほど明瞭ではないが、女においても和語と漢語との割合は身分・職業の差と密接な相関関係があるものと考えられる。

そして、この和語と漢語との反比例する使用率の傾向性は、(A)に属する人物が話題に引用した(B)に属する人物にもあてはまる。それは第7表（延べ語数）・第8表（異なり語数）の通りである。

そこで、次に、和語と漢語との使用率によって東京人の分類を試みてみよう。身分の明確な五人の男についてみると、その使用率は次のようになる。

	延べ語数		異なり語数	
	(和)	(漢)	(和)	(漢)
鄙武士	58.0	42.0	54.1	45.9
士	72.1	27.9	64.8	35.2
町人	77.6	22.4	74.1	26.0
商法個	80.8	19.2	76.0	24.0
職人	83.8	16.2	83.1	16.9

したがって、延べ語数の場合は、〔士〕と〔商〕は和語72.1パーセントから77.6パーセントの間、漢語27.9パーセントから22.4パーセントの間、〔商〕と〔工〕は和語80.8パーセントから83.8パーセントの間、漢語は19.2パーセントから16.2パーセントの間で区切ることができる。一方、異なり語数の場合は〔士〕と

第7表 和語と漢語の使用率表(延べ語数)

性別	No.	人物	語種	
			和語	漢語
男	19	書画会に出席した人	57.1	42.9
	27	あな くま	66.7	33.3
	31	異 人	71.4	28.6
	22	花 清(講談師)	71.4	28.6
	23	あ る 先 生	73.0	27.0
	24	音 ち ゃ ん	76.9	23.1
	25	土 地 の 者	77.8	22.2
	26	魯 文	80.0	20.0
	27	河 竹	83.3	16.7
	28	楓 胡 先 生	83.3	16.7
	29	客 人	87.5	12.5
	30	唐物屋の番頭	93.0	10.0
	31	旦 那	90.9	9.1
	32	お 茶 屋	100	0
	33	客	100	0
	34	道 灌	100	0
35	棟 梁	100	0	
36	犬 公・元 役	100	0	
女	5	浜のしんるい	77.3	22.7
	6	ころの母	77.8	22.2
	7	おいらん	80.0	20.0
	8	番 新	82.4	17.7
	9	小の町さん	92.3	7.7
	10	女 中	100	0
	11	茶屋のおかみ	100	0
	12	遊 女 屋	100	0

第8表 和語と漢語の使用率表(異なり語数)

性別	No.	人物	語種	
			和語	漢語
男	19	書画会に出席した人	45.5	54.5
	27	あな くま	66.7	33.3
	21	異 人	66.7	33.3
	22	あ る 先 生	68.8	31.2
	23	花 清(講談師)	71.4	28.6
	24	土 地 の 者	75.0	25.0
	25	音 ち ゃ ん	76.9	23.1
	26	魯 文	80.0	20.0
	27	河 竹	83.3	16.7
	28	楓 胡 先 生	83.3	16.7
	29	客 人	85.7	14.3
	30	唐物屋の番頭	90.0	10.0
	21	旦 那	90.9	9.1
	32	お 茶 屋	100	0
	33	客	100	0
	34	道 灌	100	0
35	棟 梁	100	0	
36	犬 公・元 役	100	0	
女	5	浜のしんるい	76.9	23.1
	6	ころの母	77.8	22.2
	7	おいらん	78.6	21.4
	8	番 新	80.0	20.0
	9	小の町さん	92.0	8.0
	10	女 中	100	0
	11	茶屋のおかみ	100	0
	12	遊 女 屋	100	0

〔商〕は和語は64.8パーセントと74.1パーセントの間、漢語は35.2パーセントと26.0パーセントの間、〔商〕と〔工〕は和語は76.0パーセントから83.1パーセントの間、漢語は24.0パーセントから16.9パーセントの間で区分できる。そこで、それぞれの上限と下限で区切ってみると(女にも適用する)、その人物群は次のようになる。人物名に○印があるのは延べ語数の場合と異なり語数の場合とで、その区分が同じ所属であることを示す。区分が移動するものには×

印をつけた。

延べ語数の場合

- 男 (a) グループ (5名)……°鄙武士, °新聞好の男, °藪医者, *生文人,
°士
(b) グループ (2名)……°西洋好の男, *馬
(c) グループ (4名)……°町人, °あくぬけした男, *芝居者, °商法個
(d) グループ (2名)……°牛 °野幫間
(e) グループ (5名)……°職人, *落語家, °墮落個, *文盲の男, °車夫
女 (f) グループ (1名)……°歌妓
(g) グループ (3名)……*たちのきの娼妓, °茶店女 (ころ), °それし
やあがり (ひき)

異なり語数の場合

- 男 (a) グループ (4名)……°鄙武士, °新聞好の男, °藪医者, °士
(b) グループ (2名)……*生文人, °西洋好の男
(c) グループ (3名)……°町人, °あくぬけした男, °商法個
(d) グループ (6名)……*芝居者, *落語家, *野幫間, *馬, *文盲の男
°牛
(e) グループ (3名)……°職人, °墮落個, °車夫
女 (f) グループ (2名)……°歌妓, *たちのきの娼妓
(g) グループ (2名)……°茶店女 (ころ), °それしやあがり (ひき)

まず、延べ語数の場合を基本にして異なり語数の場合と比較すると、〔士〕階層と考えられる (a) グループでは生文人が動き、〔商〕階層と考えられる (c) グループでは芝居者が動く。〔工〕階層と推定される (e) グループでは、落語家、文盲の男がゆれている。そして (b) グループは〔士〕と〔商〕の間、(d) グループは〔商〕と〔工〕の中間的立場にあり、(b) グループでは西洋好の男、(d) グループでは牛と野幫間とが固定している。

異なり語数の場合を基本にしてみると、中間的立場にある (b) グループが生文人と西洋好の男、(d) グループが芝居者、落語家、野幫間、文盲の男、馬、牛となり、(d) グループには芸能人と芸能好きの文盲が集中しており、

それに馬と牛が同一グループを形成する。しかも、(a) グループ、(c) グループ、(e) グループは○印のついた固定した人物だけである。

したがって、異なり語数の場合には、

(a) グループ……[士] 階層

(b) グループ……教養階層

(c) グループ……[商] 階層

第9表 安愚楽鍋の語彙体系

性別	グループ	人物	語種		和語		漢語		和語		漢語		
			使用率	使用率	使用率	使用率	使用率	使用率	使用率	使用率			
			54.1 64.8 %	45.9 35.2 %	65.8 70.9 %	34.2 29.1 %	74.1 76.0 %	26.0 24.0 %	78.7 81.6 %	21.3 18.4 %	83.1 87.8 %	16.9 12.2 %	
男	(a)	鄙 武 士	54.1	45.9									
		新 聞 好 の 男	57.5	42.5									
		士 薙 師	64.2	35.8									
		藝 医 者	64.8	35.2									
	(b)	生 文 人			65.8	34.2							
		西 洋 好 の 男			70.9	29.1							
(c)	町 人					74.1	26.0						
	あ く め け し た 男					74.7	25.3						
(d)	商 法 個					76.0	24.0						
	芝 居 者							78.7	21.3				
	落 語 家							80.1	19.9				
	野 帮 間							80.8	19.3				
	馬 盲 の 男							80.9	19.1				
(e)	文 牛							81.0	19.0				
								81.6	18.4				
	職 墮 落 個 夫										83.1	16.9	
(f)											83.3	16.7	
											87.8	12.2	
女	(g)	歌 妓						79.8	20.3				
		た ち き の 娼 妓							81.1	18.9			
		茶 店 女(ころ)									84.8	15.3	
		そ れ し や あ が り (ひき)									86.7	13.3	

(d) グループ……芸能人階層

(e) グループ……〔工〕階層

となり、この分類は明治初期東京人の階層を十分に反映している。

女の場合は、男の基準を適用したので問題もあろうが、延べ語数の場合で考えれば歌妓（芸者）と娼妓との区別があり、異なり語数でみると両者の区別がなくなるが現役の職業人として一括されたことになる。そして、異なり語数の場合で男の階層にあてはめると、

第10表 人物別使用度数分布表

性別	グループ	登場人物	語種		和語																																			
			使用	度数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	15	18	20																				
男	(a)	鄙武士		23	7	2	1																																	
		新聞好の男		119	21	5	3	2	2			1																												
		士		131	22	9	3	3	1	1	1	1																											1	
		藪医者		125	17	5	4	1	2																															
	(b)	生文人		78	15	2	3																																	
		西洋好の男		97	20	11	1	1	1	2	1																													1
	(c)	町人		97	11	7	1	1																																
		あくぬけた男		181	25	8		1	1	1			1																											1
		商法個		148	19	9	6	4																																
	(d)	芝居者		163	17	8	7	1																																
野村間			126	19	2	2	1			1																														
文盲の男			122	26	5	1	3	2	1					1																									1	
落語家			124	29	13	5			1																															
馬牛			85	4	2	2																																		
(e)	職人		129	21	2	1	1	1	1	1																														
	墮落個		112	17	5	2	3																																	
	車夫		107	17	2	3	1																																	
女	(f)	歌妓		210	24	10	4	5	1	4			1																									1		
		たちのきの娼妓		157	26	11	4	5	3	1	1				1	1																								
(g)	茶店女(ころ)		141	26	6	5	3	2	1	2	1	1	1																											
	それしやあがり(ひき)		139	30	7	5	1	2	1				1	2	1																									

(f) グループ……芸能人階層

(g) グループ……[工]階層

となり、特に矛盾を生じない。したがって、身分・職業・性別においても、和語と漢語との割合は、明治初期東京人の階層と密接な相関関係をもっていたものと認められる。いいかえれば、語種からみた明治初期東京人の語彙体系は、異なり語数の和語と漢語との使用率によって示すことができ、その使用率の区分が語種からみた明治初期東京人の教養を反映する語彙体系ということができ

漢 語								外来語		混 種 語							固有名詞					計	
1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	1	2	3	4	5	7	13	14	1	2	3	4		5
23	4	1								5		1											67
103	8	1		1				2		18	3							16					305
85	7	1	1					1		17	2							4	1				292
77	7	1	1							29	1							7	1				278
46	3	2								10	2							28					188
49	4	1		1				1		7	1	1						5					204
39	2							1		13	3	1	1			1		6					184
69	5							3	1	28								43	8				376
55	4							2		20								21	2	1			292
44	6	3								24						1		25	2				301
34	2							1		15		1			1			19		1			225
31	7									10								23	3				236
37	5	1						2		21	2	1				1		12	3				258
18	3					1		3		5	1							4					128
9								1		4								2					56
27	2	3								17								14	1	1			222
23	4	1								20	2	1						22	1				214
16	1	1						1		11	2							14	1				177
60	3	1		1		1		4		31	4	2		1				33	3	1	1		406
37	8	3		1						22	1							11	6	1			300
28	3	3						2		18		1						8	2	1			255
23	5		1							20								12	3		1		254

る。図示すると第9表のようになる。

そこで最後に、人物によって延べ語数の使用率順位が異なり語数の場合と大きく異なった理由を明らかにするため、和語・漢語・外来語・混種語・固有名詞の使用度数分布を調査すると、第10表のようになる。

すなわち、和語は使用度数1～20、漢語は1～8、外来語は1～2、混種語は1～14、固有名詞は1～5の範囲にあり、延べ語数の場合の語種による影響の違いを示している。そして、登場人物22名のうち「馬」だけが、使用度数の最高位を漢語が占め、特異な分布を示している。ここに「馬」の順位および所属が延べ語数と異なり語数の場合とで大きく変動した原因がある。

したがって、『安愚楽鍋』における東京人の語彙体系は、異なり語数による和語と漢語の使用率によって示され、その基準によって分類された東京人のグループは、それぞれ、その教養を反映しているものと認められる。

〔別表〕 人物別使用語彙表

- | | | |
|---------|---------|----------|
| (1) 鄙武士 | (4) 商法個 | () 原文表記 |
| (2) 士 | (5) 職人 | [] 漢字注記 |
| (3) 町人 | | [] 品詞 |
| | | < > 歌 |

(1) 鄙武士→となりの客・女中（鄙武士の独益・初編）

		和	漢	外	混	固			和	漢	外	混	固
1	ああ(アア)[感]	2					14	おなご <small>(女子)</small>	4				
2	あさひ<歌>	(1)					15	およぶ <small>(及ぶ)</small>	1				
3	あのう(あのウ)[感]	1					16	おる(をる)	1				
4	いたる<歌>	(2)					17	カイカ <small>(開花)</small>					1
5	イチメエ <small>(一皿)</small>	1					18	カイケイ <small>(會計)</small>					1
6	イッキン <small>(一斤)</small>	1					19	かかる[連体]					1
7	いま[副]	1					20	ガッポウテン <small>(割烹店)</small>					1
8	いや(イヤ)[感]	2					21	カン <small>(軒)</small> <歌>					(1)
9	いわゆる <small>(所謂)</small> [連体]	1					22	ギ <small>(義)</small>					1
10	インジュン <small>(因循)</small> する)		1				23	きみ <small>(君)</small> [代]					1
11	うま <small>(馬)</small> <歌>	(2)					24	ギュウニク <small>(牛肉)</small>					2
12	ええ <small>(ゑゑ)</small> [形]	2					25	きる <small>(斬)</small> 1					(3)
13	おお <small>(ヲヲ)</small> [感]	1						(きる)1					

		和 漢 外 混 固	
26	きわまる(極まる) ₁ (きはまる) ₁ (きはまる) 〈歌〉 (1)	2	
27	くる(来る) ₁ (くる) ₂	3	
28	くれる〔呉〕	2	
29	ゲキハツ(激發) ヤゲニナル	1	
30	ケンジ(健兒)〈歌〉	(1)	
31	コウミ(高味)	1	
32	ゴコウブツ(御好物)	1	
33	ゴザる	3	
34	この(此)〔連体〕	1	
35	ゴメン(御めん) ₁ (ごめん) ₁	2	
36	こや(コヤ)〔感〕	2	
37	こやこや(是や〜) ₁ 〔感〕 3 (こや〜) ₁ (こや〜) ₁		
38	ころも(衣)〈歌〉	(1)	
39	さけ(酒)	1	
40	しきしま〈歌〉(敷島)	(1)	
41	シゴク(至極)〔名〕	1	
42	シゴク(至極)〔副〕	1	
43	ジサンいたす(持参い たす)	1	
44	ジセイ(時勢)	1	
45	シッケイ(尖敬)	2	
46	シャ(社)〈歌〉	(1)	
47	シュウスイ(秋水)〈歌〉	(1)	
48	シュウセンいたす (周旋いたす)	1	
49	ジュウハチ(十八)〈歌〉	(1)	
50	シュエン(酒えん)〈歌〉	(1)	
51	ジョウ(滋養)	1	
52	ショウミ(正味)	1	
53	ショウミいたす(賞味 いたす)	1	

		和 漢 外 混 固	
54	シヨクリ ヨウ(食料)	1	
55	シンソク(神速)	1	
56	ジンヤ(陣屋)〈歌〉	(1)	
57	スイサツ(すむさつ)	1	
58	する〔為〕	1	
59	セイジツ(誠実) マコトニ	1	
60	セイニク(生肉)	2	
61	そして〔接〕	1	
62	そで〈歌〉	(1)	
63	ちょっと(一寸)〔副〕	1	
64	つかまつる(仕る)	1	
65	テツ(鉄)〈歌〉	(1)	
66	ト(徒)	1	
67	とう(とふ)〔問〕〈歌〉	(1)	
68	なか(中)〈歌〉	(1)	
69	なに(何) ₁ (なに) ₁	2	
70	なま(生)	1	
71	なんぼ〔副〕	1	
72	におう(匂ふ)〈歌〉	(1)	
73	はあ(ハア)〔感〕	1	
74	ビシヨウネン(美少年) 〈歌〉	(1)	
75	ひと(人)〈歌〉 (人) ₁	(3)	
76	ブツカ(物價) モノシキ	1	
77	フットウ(沸騰)	1	
78	ふる(触)〈歌〉 (ふる) ₁	(2)	
79	ベンキョウ(勉強) ウする	1	
80	ボク(僕)〔代〕	1	
81	まかりこす	1	
82	まじわり(交)〈歌〉	(1)	
83	ますらお(ますら雄) 〈歌〉	(1)	
84	また〔副〕	1	
85	むすぶ〈歌〉	(1)	

		和 漢 外 混 固
86	メイテイ(醜) ^{めいてい}	1
87	もうす(もうす)	1
88	もつ[持]	1
89	もの(物) ^{もの}	1
90	やっこい(和味) ^{やっこい}	1
91	やまさくらばな(山さ くら花)〈歌〉 ^{やま}	(1)
92	やまごころ(やまと ごころ)〈歌〉	(1)

		和 漢 外 混 固
93	ユカイ(愉快) ^{ゆかい}	3
	〈歌〉	(1)
94	ヨウカン(腰間)〈歌〉 ^{ようかん}	(1)
95	ワン(腕)〈歌〉 ^{わん}	(1)
計	延べ語数	47 34 0 8 0 (25)(11) (1)
	異なり語数	33 28 0 6 0 (18)(11) (1)

(2) 士→町人 (覆古の方今話・二編下)

		和 漢 外 混 固
1	あたひ(價) ^{あたひ}	1
2	あと(後) ^{あと}	1
3	あのセツ(当節) ^{あのせつ}	1
4	あははは(アハハハ) 〈笑〉	1
5	あまり[副]	1
6	あやまち	1
7	あり[有]	1
8	ある[有]	7
9	いう(云) ₁ ^{いふ}	5
10	いきる(活る) ^{いきる}	1
11	イショク(衣食) ^{いしょく}	1
12	イゼン(以前) ^{いぜん}	1
13	いたす[致]	2
14	いただく	1
15	イチブ(一分)	2
16	イチモン(一文)	1
17	イッサクネン(一昨年) ^{いっさくねん}	1
18	イッショ(一集) ^{いっしょ}	1
19	イッショウ(一升)	1
20	イッスン(一寸) ^{いっすん}	1
21	イライ(以来) ^{いらい}	1
22	いや(イヤ)[感]	1
23	いやさ(イヤサ)[感]	1
24	いれまぜる(入れ交る) 1	
25	インジュンカ(因循家) ^{いんじゆんか}	1

		和 漢 外 混 固
26	インラン(淫乱) ^{いんらん}	1
27	うける(受る) ^{うける}	1
28	うし(牛) ^{うし}	1
29	うたジョウルリ(うた じゃうるり)	1
30	うち(中) ^{うち}	1
31	うとい[形]	1
32	うみつむぎ(紡績) ^{うみつむぎ}	1
33	うらチヨウ(裏町) ₂ ^{うらちやう}	2
34	うらや(裏店) ^{うらや}	1
35	ABC(エビン)	1
36	おいおい(漸次)[副] ₂ ^{おいおい} (おひおひ) ₁	2
37	おおい(多イ)[形]	1
38	おおきい(大きい)[形]	1
39	おおきに(大きに)[副]	1
40	おおし(多し)[形]	1
41	おおどおり(大通り) ^{おほどおり}	1
42	おかげ(裨益) ^{おかげ}	1
43	おくに(皇国) ^{おくに}	1
44	おごり(奢侈) ₁ (おごり) ₁	2
45	おすくい(おすくひ)	1
46	おっと(夫) ^{おつと}	1
47	おどり(をどり)	1
48	おなじ	2
49	おのれ[代]	1

和 漢 外 混 固		和 漢 外 混 固			
50	おび〔帯〕	1	83	くいづぶず(食倒す)	1
51	おめし(お召)	1	84	くう(食) ₁	3
52	おもい(重い)〔形〕	1		(食ふ) ₁	
53	おもう(思ふ) ₁	4		(食ふ) ₁	
	(おもふ) ₃		85	くち(口)	1
54	おる(居る)	1	86	くに(國)	2
55	おんな(老少婦女子)	1	87	クベツ(區別)	1
56	カイコウゴシ(開港互 市)	1	88	グマイ(淺智)〔愚味〕	1
57	ガイコク(外國)	1	89	くやむ	1
58	カイコン(開墾)	1	90	くるしめる	1
59	カイドウ(街道)	2	91	くわばたけ(桑園)	1
60	かかわる(関係)	1	92	ケイセイ(形勢)	1
61	かく(斯)〔副〕	1	93	コウエキ(互市)	2
62	かこつける	1	94	コウジキ(高直)	1
63	ガシする(餓死する)	1	95	コキン(古金)	1
64	カゾクがた(華族方)	1	96	コクサン(國産)	1
65	カゾクさまがた(華族 さまがた)	1	97	こころ	1
66	かたち	1	98	こころえる	2
67	カチクデンセン(家畜 伝染)	1	99	こと(事) ₁	8
68	かの〔連体〕	1		(事情) ₁	
69	かるい〔形〕	1		(こと) ₆	
70	かんがえる(かんがへ る)	1	100	ゴトウチ(東京)〔御当 地〕	1
71	ガンライ(元来)〔副〕	1	101	こども(老少婦女子)	1
72	きぬいと(白糸)	1	102	この〔連体〕	1
73	ギョウテン(牛店)	1	103	このむ	2
74	キョウシュク(恐縮)	1	104	こまる〔困〕	1
75	きらう(嫌ふ)	1	105	こめ(米) ₁	2
76	きる(着る)	1		(米) ₁	
77	キン(金)	1	106	こも(薦)	1
78	ギン(銀)	1	107	これ(是)	1
79	キンギンカヘイ(金銀 貨幣)	1	108	コンニチ(今日)	1
80	キンずる(禁ずる)	1	109	コンニャク(こんにゃ く)	1
81	キンネン(近年)	1	110	コンパクいたす(困迫 いたす)	1
82	グあい(工合)	1	111	サイ(妻)	1
			112	さかん〔盛〕	3
			113	さき〔先〕	1

和 漢 外 混 固		和 漢 外 混 固			
114	サク(策)	1	149	すておく	1
115	さけ[酒]	1	150	すべて[副]	1
116	サコウ(鎖港)	1	151	すむ[住]	1
117	さだめ(定座)	1	152	する	6
118	さびしい(寂寞)[形]	1	153	セイチャ(製茶)	1
119	さりとて[接]	1	154	セイミツ(精密)	1
120	されば[接]	1	155	セイヨウカ(西洋家)	1
121	サンケイ(参詣)	1	156	セカイ(地球)	1
122	サンブツ(産物)	1	157	セツ(説)	2
123	ジゴク(隠売女)	1	158	ゼンタイ(全体)	1
124	しごと(職業)	1	159	センニン(千人)	1
125	したがう	1	160	そう(斯)[副]	1
126	シチハチネン(七八年)	1	161	その(依舊)[連体]	5
127	ジツジョウ(実情)	1		(その) ₄	
128	しばい(芝居)	1	162	それに[接]	1
129	しめる(屠る) ₁	2	163	ダイきらい(大きらい)	1
	(縮る) ₁		164	タイビョウ(大びょう)	
130	ジュウ(自由)	1		[大病]	1
131	ショ(書)	1	165	タイホウ(大砲)	1
132	ショウ(性)	1	166	たかい(騰貴)[形]	4
133	ジョウイ(攘夷)	1		(貴い) ₁	
134	ジョウショク(常食)	1		(高い) ₁	
135	ショクニンども(しょく くにんども)	1	167	たち[質]	1
136	ショコクとも(諸国と も)	1	168	たとい(設令)[副]	1
137	ジリョウ(治療)	1	169	たねがみ(蚕紙)	1
138	しる(知る) ₂	3	170	たのもしい[形]	1
	(しる) ₁		171	たび[度]	1
139	しるし	1	172	たる[足]	1
140	しれる(知れる)	1	173	ちいさい(小さい) ₁	
141	シン(真)	1		[形]	3
142	シンショウ(身上)	1		(ちひさい) ₂	
143	シンブツ(神仏)	1	174	ちがひ(疑ひ)	1
144	す(酔)	1	175	チャ(茶)	1
145	すき(好)	1	176	チャばたけ(茶園)	1
146	すぎる	3	177	チョウテイ(朝廷)	1
147	すこし[副]	3	178	ちよつと[副]	1
148	すこしも[副]	1	179	つい(終)[副]	1
			180	ついに(終に)[副]	1

和 漢 外 混 固		和 漢 外 混 固		
181	ツウヨウ(通用)	1	213 ニクシヨク(肉食)	1
182	つよい[形]	1	214 ニブ(二分) ₁	2
183	できる(出来る) ₂ (出来る) ₁ (できる) ₁	4	(貳分) ₁	
184	テツ(鉄)	1	215 のぞく(読く)[覗]	1
185	テツセン(鉄銭)	1	216 のむ[飲]	1
186	でる(出る) ₁ (でる) ₁	2	217 はい(ハイ)[感]	2
187	ドウ(銅)	1	218 はかた<地名>	1
188	どうか[副]	1	219 ハクハツ(白髪) ₁	1
189	トウケイ(東京)<地名>	2	220 はず(はつ)[替]	1
190	トウケイずまい(東京 住居)<地名>	1	221 はずかしい(はずかし い)[形]	1
191	トウジ(当時)	1	222 ハンカ(繁花)	1
192	ドウセン(銅銭)	2	223 ハンジョウ(繁昌)	1
193	トウテン(当店)	1	224 ハンテンおりもの(は んてん織物)	1
194	ドウヨウ(どうやう) [同様]	1	225 ビシヨク(美食)	1
195	とかく[副]	1	226 ひと(人)	2
196	とき[時]	2	227 ひどい[形]	1
197	ところ(所)	1	228 ひとつ(一つ)	1
198	ところで[接]	1	229 ひとで(人手)	1
199	となえる(唱へる)	1	230 ヒャク(百)	1
200	とみ(富)	2	231 ヒャクニン(百人)	1
201	とむ(富)	1	232 ひらける(開化文明) ₁	2
202	ともに[副]	1	(ひらける) ₁	
203	とりよせる(取よせる) ₁	1	233 ビンボウかくし(びん ぼうかくし)	1
204	どれほど(如何程)[副] ₁	1	234 ふえる(増殖る)	1
205	トンジャク(とんぢゃ く)	1	235 ふきかえ(ふきかへ)	1
206	ない[形]	9	236 フケイキ(不景気)	1
207	なし[形]	1	237 フコクキョウヘイ(富 国強兵)	1
208	なまえい(なまえひ)	1	238 フジユウ(ふじゆう) [不自由]	1
209	なみがた(波形)	1	239 ふね(大艦)	1
210	なる(成る) ₃ (なる) ₁₂	15	240 ブン(分)	1
211	ナンキンマイ(洋米)	1	241 ベンズル(便ずる)	1
212	なんと(ナント)[副]	1	242 ヘンピ(偏鄙)	1
			243 ホク(覆篋)[反故]	1
			244 ボク(僕)	3

		和漢外混固			和漢外混固
245	マイド(毎度)	1	270	やみ(闇)	1
246	まず(先) ₁ [副]	2	271	ユウゲイ(遊芸)	1
	(第一) ₁		272	ゆえ(ゆゑ)	2
247	ますます(益) ₁ [副]	1	273	よ(開化文明) ₁ [世]	1
258	まとまる	1	274	よい[形]	1
249	まなぶ	1	275	ヨウ(やう)[様]	4
250	まま(依舊) ₁ [儘]	3	276	ヨウサン(養蠶)	1
	(まま) ₂		277	よく[副]	1
251	まんなか(真中)	1	278	よこモジ(横文字)	1
252	み(身)	1	279	よせ(話席)	1
253	みせもの(観物場)	1	280	よむ(読)	1
254	みっか(三日)	1	281	よんモン(四文)	2
255	みる(見る) ₁	3	282	り(理)	1
	(見る) ₂		283	リコウ(佷利) ₁	2
256	むすめ	1		(りかう) ₁	
257	メイ(銘)	1	284	わが(我)[連体]	1
258	めぐらす	1	285	わかる(分明) ₁	3
259	もちいる(用ひる) ₁	2		(分る) ₁	
	(用ひる) ₁			(わかる) ₁	
260	もと(舊)	1	286	ワカン(和漢)	1
261	もの(物) ₁	5	287	わざ(工) ₁	2
	(者) ₁			(わざ) ₁	
	(もの) ₃		288	わり(比例)	1
262	やがて[副]	1	289	わりあい(比例)	2
263	やから	1	290	わるい(形)	2
264	ヤクショ(訳書)	1	291	わるデエ(変曲)	1
265	やつ(徒)	1	292	われ(自己) ₁ [代]	2
266	やっぱり(矢張り)[副]	1		(われ) ₁	
267	やはり[副]	1	計	延べ語数	274 106 1 21 6
268	ヤホツ(夜ほつ)[夜発]	1		異なり語数	173 94 1 19 5
269	やまい(やまひ)	1			

(3) 町人→士・女中 (覆古の方今話・二編下)

		和漢外混固			和漢外混固
1	あおセン(靑銭)	2	5	あじ(味)	1
2	あがる[上]	1	6	あと[後]	1
3	あきないにくい(あき なひにくい)[形]	1	7	あねえ(あねへ)[姉]	1
4	あける[明]	1	8	あの[連体]	1
			9	いう(いふ)[言]	1

和 漢 外 混 固	
10	いかが[副] 1
11	イゼン[以前] 1
12	いたす[致] 1
13	いでる(出る) 1
14	いれあわせ(入レあはせ) 1
15	うかがう(伺ふ) 1
16	うし(牛肉) 1
17	うすらぐ 1
18	うち[内] 1
19	うわさ(うはさ) 1
20	おい(老) 1
21	おいおい(おひ〜) [副] 2
22	おおきい(大きい)[形] 1
23	おおきに(大きに)[副] 1
24	おおせ(仰) 1
25	おおよそ(大都) 1
26	おカン(おかん)[御酬] 1
27	おそれいる(おそれ入) 1
28	おそろしさ 1
29	おっしゃる(御しゃる) 1
30	おっと(ヲット)[感] 1
31	おとす[落] 1
32	おなじ[同] 1
33	おはなしどおり(おはなし通り) 1
34	おぼえる(おぼへる) 2
35	お=もちいる(お用ひる) 1
36	おやおや(ヲヤ〜) [感] 1
37	おる(をる)[居] 2
38	ガイコク(外國) 1
39	ガクモン(學文) 1
40	かみゆいセン(髮結賃) 1
41	かヨウ(かやう)[斯様] 1
42	かわり(かはり) 1
43	かんがえる(かんがへ

和 漢 外 混 固	
	る) 1
44	カンジョウ(勘定) 1
45	ギユウニク(牛肉) 1
46	キョウコク(強國) 1
47	キン(きん)[金] 1
48	ギン(ぎん)[銀] 1
49	グアンいたす(愚案いたす) 1
50	くれる(呉) 1
51	くれる(暮) 1
52	ケイキ(けい氣)[景氣] 1
53	けがれる 1
54	ケッコウ(結構) 1
55	コウジキ(高直) 1
56	ゴエイジュウ(御永住) 1
57	ゴザる 14
58	コジキ(乞兒) 1
59	ゴジセイ(御時世) 1
60	こと[事] 3
61	この(此)[連体] 1
62	このセツ(此せつ) 1
63	ゴハン(御飯) 1
64	こまる 1
65	こめ(米) 2
66	これ[代] 1
67	これこれ(コレ〜) [感] 1
68	サクコン(昨今) 1
69	サクリョウ(作料) 1
70	さほど[副] 1
71	さヨウ(さやう) 4
72	ジセツがら(時せつがら) 1
73	ジツに(実に) ₂ (じつに) ₁ 3
74	ジュウニモンセン(十 二文錢) 1
75	ジュウニバイ(十二倍) 1
76	ジュウモン(十文) 1

和 漢 外 混 固		和 漢 外 混 固		
77	ショ シキ(諸色)	1	109 トウジ(当時)	1
78	ショ ショク(諸職)	1	110 ドウヨウ(どうやう)	
79	シンブン(新聞)	1	[同様]	1
80	すむ[済]	1	111 とかく[副]	1
81	セイヨウリュウ(西洋流)	1	112 ところ	1
82	セツ(説)	1	113 ともうして(ト申て)	
83	セツカク(せっかく)		[接]	1
	[副]	1	114 とりかえる(とりかへる)	1
84	センコク(せんこく)		115 とる(取る) ₁	2
	[先刻]	1	(とる) ₁	
85	そして[接]	1	116 とんと[副]	1
86	その[連体]	1	117 ない[形]	3
87	それ[代]	1	118 なつ(夏)	1
88	それぞれ(それへ)	1	119 なべ(鍋)	1
89	ダイク(工匠)	1	120 なま[生]	1
90	たかい(貴い)[形]	3	121 なる[成]	4
	(たかい) ₂		122 につく(煮つく)	1
91	たちかえる(たちかへる)	1	123 ニクショク(肉食)	1
92	たべもの(食店)	1	124 ニッポン(日本)	1
93	ダンナさま(だんなさま)	1	125 ニモン(二文)	1
94	タンもの(布帛)[反物]	1	126 はず(はず)[替]	1
95	ちかごろ	1	127 ハチモン(八文)	1
96	チョウド(丁度)[副]	1	128 はったり(ハツタリ)	
97	つり[釣]	2	[副]	1
98	つれる[連]	1	129 ははは…(ハハハ…)	
99	でゴザリますが[接]	1	<笑>	1
100	てぢかい(手近い)[形]	1	130 はらう(はらふ)[拂]	1
101	テッセン(鉄銭)	1	131 ハンジョウ(はんしゃう)	1
102	てま(手間)	1	132 ハンジョウいたす(はんじゃういたす)	1
103	デンセンビョウ(伝染病)	2	133 ハンブンね(半ぶん直) ₁	2
			(はんぶん直) ₁	
104	テンポウセン(当百銭)	1	134 ひ(日)	1
105	トウ(当)	1	135 びた(鑊)	1
106	どうか[副]	1	136 ひと[人]	1
107	トウケイ(東京)<地名>	1	137 ひとつ(一ツ)	1
108	とし(年)	1	138 ひらけかかる	1

和 漢 外 混 固			和 漢 外 混 固		
139	フウブン(ふうぶん) 〔風聞〕	2	163	もの	2
140	ふえる(ふへる)	1	164	やすい(賤い) ₁ (やすい) ₁	2
141	ブンキュウ(文久)	1	165	やめる〔止〕	1
142	ブンキュウセン(文久 銭)	1	166	やる(与る) ₁ (やる) ₂	3
143	へい(へい)〔感〕	1	167	ゆえ(ゆゑ)〔故〕	5
144	へいへい(へいへい) 〔感〕	1	168	ゆセン(浴湯銭)	1
145	へへえ(へへえ)〔感〕	1	169	よ(夜)	1
146	ほか(余)	1	170	よい〔形〕	2
147	ほほほほ(ホ…)<笑>	1	171	よむ〔読〕	1
148	ホンヤクもの(翻訳書)	1	172	よんジュウよんモン (四十四文)	1
149	まいる(まある)〔参〕	1	173	よんモン(四文)	2
150	まじる〔交〕	1	174	Rinderupōsuto	1
151	まず(先)〔副〕	1	175	ロクシチバイ(六七倍)	1
152	また(又)〔接〕	1	176	ロクバイ(六倍)	1
153	みえる(見へる)	1	177	わかる	1
154	みな〔副〕	1	178	わけ(条理)	1
155	みる(見る)	1	179	わする〔四段〕	1
156	むかし(畴昔)	1	180	わたくし〔代〕	2
157	ムカンジョウ(無勘定)	1	181	わたる〔渡〕	1
158	めしあがる	1	182	わり〔割〕	3
159	も(モ)〔副〕	1	183	わりあい(比例)	2
160	もうす(申す)	3	184	わるい〔悪〕〔形〕	1
161	もちいる(用ひる)	1	計	延べ語数	149 43 1 40 6
162	もと(蓄) ₁ (もと) ₂	3		異なり語数	117 41 1 19 6

(4) 商法個→商兵衛 (商法個の胸会計・三編上)

和 漢 外 混 固			和 漢 外 混 固		
1	ああ(アア)〔感〕	1		〈国名〉	1
2	あかがね(赤銅)	1	8	Amerika ジュウハチ バン(あめりか十八番)	1
3	あたらしい(新しい) 〔形〕	1	9	ある〔有〕	2
4	あたり〔辺〕	2	10	ある(或)〔連体〕 (ある) ₁	2
5	あっち(彼処)	1	11	あるじ(亭主)	1
6	あぶら(油)	1	12	いい(可)〔形〕	1
7	Amerika (あめりか)				

		和 漢 外 混 固	
13	いう(いふ)[言]	5	
14	いかさま[副]	1	
15	いく(行く) ₁ (船行) ₁ (いく) ₁	3	
16	イクジ(いくぢ)[意気 地]	1	
17	いくら[名]	1	
18	いくら[副]	1	
19	イジン(異人)	2	
20	いせかつ(伊勢勝)〈店 名〉	1	1
21	イチネン(一年)	1	
22	イチバン(一番)	1	
23	イチわり(一わり)	1	1
24	イッペイ(一杯)	1	
25	イッポン(百円)	1	
26	いや(イヤ)[感]	1	
27	いる(居る) ₁ (みる) ₂	3	
28	いわっしゃる(いはっ しゃる)	1	
29	うう(ウウ)[感]	1	
30	うえ(上)	1	
31	うし(牛)	1	
32	うしづれ(牛連)	1	
33	うしや(牛店) ₁ (牛店) ₁	2	
34	うた(歌)	1	
35	うち(内) ₁ (うち) ₂	3	
36	うでまえ(腕前)	1	
37	うなぎ(鰻)	1	
38	うまい(佳い)[形]	1	
39	うりぬし(賣主)	1	
40	うる(賣) ₁ (賣る) ₁	2	
41	うんと(ウンと)[副]	1	
42	ええ(エエ)[感]	2	

		和 漢 外 混 固	
43	おあい(お合)	2	
44	おいおい(ヲイ〜) [感]	1	
45	おいら[代]	2	
46	おいらあ(おいらア)	3	
47	おエキ(お易)		1
48	おおきな(大きな) [連体]	1	
49	おおサンザイ(大散財)		1
50	おく[置]	1	
51	おしわたる(おし渡る)	1	
52	おす(押)	1	
53	おとる[劣]	1	
54	おなぐさみ	1	
55	おまけに[副]	1	
56	おめえ(おめへ)[代]	1	
57	おもう(思ふ)	1	
58	おや(ヲヤ)[感]	1	
59	かいおとす(買落とす)	1	
60	かいこむ(買込む)	2	
61	かいて(買手)	1	
62	かう(買ふ) ₂ (買ふ) ₁	4	
63	かかり	1	
64	カクベツ(格別)		1
65	かこう(囲ふ)	1	
66	がっかりする	1	
67	かね(金貨)	1	
68	かばやき(蒲焼)	1	
69	カホウ(果報)		1
70	かむ(噛む)	1	
71	からからする(カラ 〜する)	1	
72	からっきし[副]	1	
73	かわり(替り) ₁ (代り) ₁	2	
74	カンジョウ(かんぢや う)		1
75	キ(氣)		1

		和 漢 外 混 固	
76	きもったま(肝ッ玉)	1	
77	きやつら(彼奴等)	1	
78	キュウ(急)	1	
79	ギユウ(牛肉)	1	
80	ギユウニク(肉牛) ₂	2	
81	キョネン(去年)	1	
82	くう(食ふ) ₂	3	
	(くふ) ₁		
83	くえる(食へる)	1	
84	くる(来) ₁	5	
	(来る) ₂		
	(着る) ₁		
	(くる) ₁		
85	くれる	1	
86	ケエカ(開化)	1	
87	けえる(帰帆)	1	
88	ゲラクする(下落する)	1	
89	コウカイする(航海する)	1	
90	こうこう(コウ〜)		
	[感]	1	
91	こうべ(神戸)〈地名〉	3	
92	こうり(小賣)	1	
93	こく[漕]	1	
94	ゴク(極)[副]	1	
95	こくこく(コク〜)		
	[副]	1	
96	ここ(爰) ₃	4	
	(此家) ₁		
97	こころがける	1	
98	ゴザる	1	
99	こす(越す)	1	
100	こっぱ[木端]	1	
101	こと[事]	4	
102	ことし(今年)	1	
103	ことなれる(事馴る)	1	
104	このあいだ(此間) ₁	2	
	(此あいだ) ₁		
105	コブ(昆布)	1	

		和 漢 外 混 固	
106	ゴブ(五分葱)	1	
107	ゴブ(五分)	1	
108	ゴマン(五万)	1	
109	これ(是)「代」	2	
	(これ) ₁		
110	これ(コレ)[感]	1	
111	コンゲツ(今月)	1	
112	コンド(こんど)	1	
113	Konpeini(コンペイニ)	1	
114	サイジョウ(取上) ₁	2	
	(取上) ₁		
115	さがる(下る) ₂	3	
	(下る) ₁		
116	さき[先]	1	
117	サク(策)	1	
118	させる	1	
119	サツ(槽幣)	1	
120	ザンネン(残念)	1	
121	Sanfuranshisuko		
	(サンフランシスコ)		1
	〈地名〉		
122	しかし[接]	1	
123	しけ[時化]	1	
124	ジツに(実)に[副]	1	
125	しっかりする	1	
126	しなもの(品物)	1	
127	しば(芝)	1	
128	しまう(しまふ)	1	
129	ジみず(地水)	1	
130	しめる(屠る)	1	
131	Jawa(爪哇)〈地名〉	1	
132	Shanghai(上海)〈地名〉	1	
133	シュウセン(周旋)	1	
134	シュウセンさす(周旋さす)	1	
135	ジュウニジすぎ(十二字すぎ)	1	
136	ジュウマン(十万)	1	
137	ジュウマンリョウ(十		

和 漢 外 混 固	
万兩)	1
138 ショウカン(商館)	1
139 ショウさん(商さん)	
<人名>	1
140 ショウチ(承知)	1
101 ショウチする(承知する)	1
142 ジョウノウする(上納する)	1
143 ショウベえさん(商兵衛さん)<人名>	2
144 ショウホウ(商法)	1
145 ジョウもの(上物)	1
146 ジョチュウ(下女)	1
147 しろうとぐち(素人口)	1
148 しるもの(代物)	1
149 シンショウ(身生)	1
150 ジンブツ(人物)	1
151 ズイブン(ずゐぶん)	1
152 すじだらけ(筋だらけ)	1
153 する[為]	5
154 セイイッパイ(性一ぱい)[精一杯][副]	1
155 セカイジュウ(世界中)	1
156 ゼヒ(是非)[副]	1
157 センビョウ(千俵)	1
158 そこ(其処) ₁	4
159 その(其)[連体]	1
160 それ[代]	1
161 それに[接]	1
162 ソン(損)	1
163 そんな[連体]	1
164 ソンモウ(損毛)	1
165 ダイショウホウ(大商法) ₁	2
(大商法) ₁	
166 タイソウ(たいそう)	1
167 タイリ(大利)	1

和 漢 外 混 固	
168 ダイロク(大六)<店名>	1
169 たかしまや(高嶋や)<店名>	1
170 だす(出す)	1
171 たちのき(立退)	1
172 たちまち(忽ち)[副]	1
173 たつ(立つ)	1
174 たまご(鶏卵)	1
175 たまらねえ	1
176 ちぎれる	1
177 ちっと[副]	1
178 チュウモンする(ちゅうもんする)	1
179 ちよっと(一寸)[副]	1
180 つきジ(築地)<地名>	1
181 つけこむ(附込む)	1
182 つける(付る) ₁	2
(つける) ₁	
183 ツゴウ(都合)	1
184 つみあがる(積上る)	1
185 つみこむ(積み込む)	1
186 つもり[積]	5
187 て(手)	3
188 できあいみせ(出来合みせ店)	1
189 できる	1
190 でなおす(出なおす)	1
191 てもと(手元)	1
192 どう[副]	2
193 どうか[副]	1
194 トウジ(当時)	1
195 トウリュウする(逗留する)	1
196 とき(時)	1
197 とこ(処)	1
198 とコリ(十行李)	1
199 とびだす(飛出す)	1
200 とんちんかん	1
201 どんな[連体]	1

		和 漢 外 混 固	
202	なじみ(知己)	1	
203	なに(何) ₂	4	
	(ナニ) ₂		
204	なま(生)	1	
205	なみ(並)	1	
206	なる(成る) ₁	4	
	(なる) ₃		
207	ナンキンマイ(南京米)	1	
208	なんでも(何ンでも)		
	[副]	1	
209	ニク(肉)	1	
210	ニサンネン(二三年)	1	
211	ニッポン(日本)〈国名〉	1	
212	ニッポンソウバ(日本相場)	1	
213	ねえ[形]	8	
214	ねぎりつける	1	
215	ねる(寝る)	1	
216	のぞむ	1	
217	のる[乗]	1	
218	はいる	2	
219	ハクランカイ(博覧会)	1	
220	はこだて(函館)〈地名〉	1	
221	はじめ	1	
222	はじめて[副]	1	
223	はずれる	1	
224	ぱっと[副]	1	
225	はて(ハテ)〈感〉	1	
226	ははあ(ハハア)〈感〉	1	
227	はばかりながら[副]	1	
228	はま(浜)〈地名〉	1	
229	はら(腹)	1	
230	ハンクち(半口)	1	
231	ハンジョウウ(繁昌)	1	
232	ハンま(半間)	1	
233	ひきかえる(引替る)	1	
234	ひきとる(引取る)	1	
235	ひさしい(久しい)[形]	1	
236	ひっかかる(引っかかる)		

		和 漢 外 混 固	
	る)	1	
237	ひと(人)	1	
238	ひとしお(一しほ)	1	
239	ひなた(日向)	1	
240	ひまし(日増)	1	
241	ひろげる(廣げる)	1	
242	ブ(分)	1	
243	ふく[吹]	1	
244	フクチセンセイ(福地先生)〈人名〉	1	
245	ふつかめ(二日目)	1	
246	ふね(船)	1	
247	フベンキョウウ(不勉強)	1	
248	ふむ[踏]	1	
249	ふる(降る)	1	
250	ふるくさい(古臭い)		
	[形]	2	
251	ふんめえる(ふんめへる)	1	
252	へる(滅)	1	
253	ほす(乾)	1	
254	ほねぬきどじょう(骨抜どぜう)	1	
255	ホラ[法螺]	1	
256	Honkon(香港)〈地名〉	1	
257	まず(まづ)[副]	1	
258	まだ[副]	2	
259	まつ(待)[動]	1	
260	まっぴら[副]	1	
261	まとめる	1	
262	みえる(見へる)	1	
263	みこむ(見込む)	1	
264	みせ(店)	2	
265	みっしり[副]	1	
266	みなと(港)	1	
267	みる(見る)	3	
268	メクテキ(目的)	1	
269	めったに[副]	1	
270	メンなし(綿なし)	1	

和 漢 外 混 固		和 漢 外 混 固		
271	もう(モウ)[副]	1	283 ヨクゾウ(欲蔵)<人名>	2
272	もうかる	2	284 よこはま(横浜)<地名>	
273	もうけ(利易)	1	(よこはま) ₁	1
274	もうける	1	285 よしわら(吉原)<地名>	1
275	モクテキ(目的)	1	286 よみ[読]	1
276	もつ(持つ)	1	287 Rasha(羅紗)	1
277	もん[者・物]	3	288 りすけ(利助)<人名>	1
278	やながわりユウ(柳川流)	1	289 リョウケン(了簡)	1
279	ゆく(行く)	1	290 ロウギユウ(老牛)	1
280	ヨウ(やう)[様]	1	291 わく(沸く)	1
281	よう(酔)	1	292 わるい(悪い)[形]	1
282	ヨウコウする(洋航する)	1	計 延へ語数	265 63 2 20 28
			異なり語数	187 59 2 20 24

(5) 職人→仲間の松 (諸工人の俵言・初編)

和 漢 外 混 固		和 漢 外 混 固		
1	あいつら[代]	2	20 イッシュョウ(一升) ₁	2
2	あがる	1	(壹升) ₁	
3	あげク(あげ句)	1	21 イッペエ(一杯)	1
4	あける[明]	1	22 いる(ある)[居]	2
5	あつい(熱い)[形]	1	23 いろけ(色氣)	1
6	あつらえこむ(あつらへこむ)	1	24 いん(犬)	1
7	あ[連体]	2	25 うええ(ウエエ)[感]	1
8	Amerika(あめりか)<国名>	1	26 うおまさ(魚政)<店名>	1
9	ある[有]	1	27 うかれだす(うかれ出す)	1
10	あんねえ(あんねへ) _女	1	28 うける[受]	1
11	いい[形]	2	29 うち[内]	1
12	いいがかる(いひがかる)	1	30 うちだ(内田)<店名>	1
13	いいブン(いひぶん)	1	31 うぬ[代]	1
14	いう(いふ)[言]	4	32 うる(売る)	1
15	いく(往)	1	33 うわキ(浮氣)	1
16	イジョウ(以上)	1	34 ええ(エエ)[感]	2
17	イチブ(壹分)	1	35 おいおい(ライ〜)[感]	1
18	イチメエ(一枚)	1	36 おおかみ(狼)	1
19	イチンチ(一日)	1	37 おく[置]	2
			38 おごる	1

		和 漢 外 混 固
39	おさらば	1
40	おしだす	1
41	おしむ(をしむ)[惜]	1
42	おショックニンさま(お しょくにんさま)	1
43	おそれる	1
44	おつきさま(お月さま)	1
45	おとこ(男)	1
46	おもう(おもふ)	1
47	おもしろい[形]	1
48	おもて	1
49	おら[代]	1
50	おらあ(おらア)[代]	2
51	があ(ガア)〈鳴き声〉	1
52	かかあ(カカア)	2
53	ガキ(孩兒)	1
54	かて[糶]	1
55	がなりだす	1
56	から(唐)〈国名〉	1
57	からすく(動物)	1
58	からだ	2
59	かわり(かはり)	1
60	カンジ(勘次)〈人名〉 (かん次) ₁	3
61	かんだ(神田)〈地名〉	1
62	きく[聞]	2
63	きはだく(魚名)	1
64	きめる	1
65	くう(喰う)	1
66	ぐずぐずする(ぐず 〜する)	1
67	くそ[糞]	1
68	くちはばってえ(口は ばってへ)	1
69	くる[来]	6
70	くれる[呉]	3
71	ゲイニン(げい人)	1
72	ゲエブン(外聞)	1
73	けえる(帰へる) ₁	2

		和 漢 外 混 固
74	ゲタ(下駄) (帰る) ₁	1
75	けつ(尻)	1
76	こう(かう)[副]	1
77	こう(コウ)[感]	2
78	ゴチソウ(ごちそう)	1
79	こちとらあ[代]	1
80	こつ[事]	1
81	こつ(小塚原)〈地名〉	1
82	こと[事]	2
83	ごみとり(鬚取)	1
84	こめ(米)	1
85	さかづき(さかづき)	1
86	さかな(肴)	1
87	さき[先・前]	1
88	さけ(酒) ₁ (酒) ₂	3
89	さげる	1
90	さしみ	1
91	させる	1
92	サツ(札)	1
93	さらべ[副]	1
94	さわぎちらす	1
95	サンゲエ(三界)	1
96	サンザッぱら(さんざ っぱら)[副]	1
97	ジ(字)	1
98	しかた	1
99	しごと(仕事)	2
100	シジュウづらあ(四十 づらア)	1
101	シチジュウ(七十)	1
102	シチニンぐらし(七人 ぐらし)	1
103	しまう	1
104	しみったれた[連体]	1
105	しみったれめえ(しみ ったれめへ)	1
106	シャリキ(車力)	1

		和 漢 外 混 固			和 漢 外 混 固
107	ジュウ(十)	1	157	つっぱえりこむ(つっぱへりこむ)	1
108	ショウベン(小便)	1	138	つもり	1
109	ショクニン(職人) ₁ (職人) ₁	2	139	つら〔面〕	2
110	しらんかおのハンベ エ(しらんかほの半 兵へ)〈擬人名〉	1	140	できる	1
111	ジンリキ(人力)	1	141	でっちる	1
112	スイカ(西瓜)	1	142	テッポウ(鉄砲)	1
113	ズイトクジ(ずるとく じ)〔随徳寺〕	1	143	てめえ(手めへ)〔代〕 (てめへ) ₁	2
114	すっぽん	1	144	でる(出る)	1
115	オノウテン(すのうて ん)	1	145	テンジョク(天ぢよく) 〔天笠〕〈国名〉	1
116	する〔為〕	5	146	トウリュウ(棟梁)	3
117	セヘクピンボウひと だから(細工びんぼ う人だから)	1	147	トウリュウデエク(棟 梁でゑく)	1
118	ゼニかね(銭金)	1	148	とおほえ(とほほへ)	1
119	セワヤキ(世話やき)	1	149	とけ(刃)	2
120	そう(さう)〔副〕	1	150	とこ(刃)	1
121	そして〔接〕	1	151	とつ(刃)	1
122	そっけ	1	152	とびこむ	1
123	その〔連体〕	1	153	とびだす(飛出す)	1
124	それなり〔副〕	1	154	ない〔形〕	1
125	たこボウズ(蛸坊主)	1	155	なかまづきええ(仲間 附合)	1
126	だす(出す)	1	156	なく(啼く)	1
127	たたきわる	1	157	なま(生肉)	1
128	たちうり(立売)	1	158	なみき(並木)〈地名〉	1
129	たて	1	159	ならべる	1
130	たまらねえ(たまらね へ)	1	160	なる(成) ₁ (なる) ₆	7
131	たれる	1	161	なん〔何〕	1
132	ちがう(ちがふ)	2	162	ナンキンメへ(南京米)	1
133	チョウド〔副〕	1	163	なんぼ〔副〕	1
134	ちよんきな(人力車)	1	164	二あがり(二上り)	1
135	つきええ(附合)	2	165	にげる	1
136	つけ	1	166	にし(西)	1
			167	ニブ(二分)	1
			168	ねえ〔形〕	8
			169	ねこ(芸妓)	1

和 漢 外 混 固		和 漢 外 混 固	
170	ネンジュウ(年中) ^{ねんぢゆう}	1	[副] 1
171	はしける	1	196 みかける(見かける)
172	はじまる	1	197 みぎ(右)
173	はずす(はずず)	1	198 みっともねえ(みっともねへ)[形]
174	ハチエモンがしら(八右衛門かしら)〈人名〉	1	199 めえ(前)
175	ハチエモンさん(八右衛門さん)〈人名〉	1	200 めし(飯)
176	ぼったんコク(ぼったん國)〈国名〉	1	201 もう(モウ)[副]
177	ハッつあん(八さん)〈人名〉	1	202 もつ[持]
178	ばばあ(ばばア)	1	203 もん[物]
179	はばかりながら[副]	1	204 や(矢)
180	はやい[早][形]	1	205 やきミノ(やき味噌)
181	ハンショウバイ(半商売)	1	206 やすみ
182	ひがし(東)	1	207 やっつける
183	ひと[人]	1	208 やめる
184	ひとしごと(人仕事)	1	209 やり[槍]
185	ピンボウゆるぎ(びんぼうゆるぎ)	1	210 やる
186	びんまがる(びん曲る)	1	211 ヤロウ(野郎) ₁
187	ふたつ(二合)	1	(やらう) ₂
188	ふり[振]	2	212 ゆあがり(湯あがり)
189	ふる[降]	1	213 ゆうべ(夕辺)
190	ホンの(ほんの)[連体]	1	214 ゆく[行]
191	まあ(まア)[感]	1	215 ゆげ(湯氣)
192	まず(まづ)[副]	1	216 よ(夜)
193	まつ(松) ₁ 〈人名〉(松) ₁	2	217 ヨウ[様]
194	まぬけ	1	218 よこちょう(横町)
195	まもなく(間もなく)		219 よやか(夜中)
			220 よる[夜]
			221 リョウケン(了簡)
			222 わけ
			計 延へ語数
			異なり語数
			207 40 0 17 19
			157 32 0 17 16

(注1) 飛田良文「明治初期東京語の指定表現体系」(『方言研究の問題点』明治書院昭和45年7月刊)

飛田良文「明治初期東京語の否定表現体系」(『国立国語研究所論集5 ことばの研究5』(秀英出版 昭和49年3月刊)

飛田良文「明治初期作品の敬語」(『敬語講座5 明治大正時代の敬語』明治

書院 昭和49年5月刊)

飛田良文『『西洋道中膝栗毛』における指定表現体系の実態』(『月刊文法』
昭和44年12月)

(注2) 鈴木英夫『『安愚楽鍋』にみられる漢語とその表記について』(『共立女子短期大学部紀要 15』 昭和47年3月)

鈴木英夫『『安愚楽鍋』の語法』(『共立女子短期大学部紀要17』 昭和48年10月)

古田東朔『『安愚楽鍋』の登場人物とその音訛』(『松村明教授還暦記念国語学と国語史』明治書院 昭和52年11月)

(注3) (B)に属する人物は、引用文からは話し手の性別や発話者を区別できない場合があるので、便宜的に合併したり、性別をきめた人物もある。

(注4) 梵語は漢語を通して輸入されたので、漢語として扱った。

(注5) 池上禎造『漢語流行の一時期』(『国語国文』第26巻第6号)